

幼稚園より

- 終業礼拝 7/13金
- 始業礼拝 9/3月
- おいさま・あばあさまと一緒に過ごす会 9/21金
- 収穫感謝礼拝 11/15木
- 創立記念礼拝(年長児) 11/19月
- アドヴェント礼拝 I 11/30金

(教諭 多々内 三恵子)

初等部より

- こどもの日・花の日礼拝 6/11月 8:25~8:50
- 召天者記念礼拝 6/19火 8:25~8:50
- 1年生なかよしキャンプ 7/17火-19木 Aグループ
- 19木-21土 Bグループ
- 教職員研修会(修養会) 8/30木-31金
- 聖書週間特別礼拝 10/16火 8:25~8:50
- となり人を覚える礼拝 10/30火 8:25~8:50
- 創立記念礼拝 11/15木 8:25~8:50
- 感謝祭礼拝 11/20火 8:25~8:50

(宗教主任 小澤 淳一)

中等部より

- 沖縄平和教育旅行(3年生) 5/29火-6/1金
- 学年旅行(2年生) 5/30火-6/1金
- 場所 河口湖
- 伝道週間 6/25月-29金
- 講師 山中 臨在 (日本/ワシントン浦和キリスト教会牧師)
- 緑庭キャンプ 7/21土-23月 高等部通分寮
- CFワーク 9/1土 9:30~11:30 校内講義
- ホスピス訪問(3年) 老人ホーム奉仕(1,2年) 桜町病院聖ヨハネホスピス 愛隣会白寿荘
- 創立記念礼拝 11/9金 8:40~9:20

(宗教主任 西田 恵一郎)



表紙写真 青山キャンパス新学舎(大学17号館)

シリーズ 地の塩、世の光 file 13

◎ 各界で活躍するクリスチャン



神の息

「モワー」「モワー」これは、リードオルガンの音の立ち上がり方を示した表現である。牧師の両親のもとに生まれた私は、物心がついた頃から、リードオルガンの音の立ち上がり方を感じていた。このオルガンは、風をつくり出す為に奏者自身が、足で左右の踏板を交互に踏み込み、最初に片足で踏み込んだ時から、少しずつ風が送られ、指で鍵盤を押さえ出すと、「モワー」と音が鳴りはじめる。それは、風で音がつくり出すという意味でも、アコーディオンの音と似ている。鍵盤を押すとすぐに「ピッ」と鳴るパイプオルガンには出す事ができない微妙な音の立ち上がりだ。私は、この「モワー」が気持ち良い。これこそが、音楽的な音の鳴り響きだとひたすら信じ、「モワー」と声を立ち上げらせ、鳴り響かせて歌っていた。

ある日のレッスンで、私の師が、「ヨーロッパの音楽は、最初から音が、「スパツ」と出なければならぬ。」という事を言われた。「モワー」と声を立ち上げさせて出しているは、ヨーロッパの音楽にはならないという事なのだ。私には、「スパツ」と歌う事は難しい。なぜなら、足で踏板を交互に踏み、少し

青戸 知
バリトン歌手

これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。

ch.37:5 Ezekiel
エゼキエル書 第37章5節

ずつ風を送って、「モワー」と鳴り響かせる音の出し方が、体中に染み込んでいるからなのだ。風とは、歌う時の息そのものだ。

〈讃美歌177番〉
かみの氣息よ、われを医やし、
疲れしところを つよめたまえ。

なぜ、「モワー」ではなく、「スパツ」でなくてはならないのか。今も、歌手として私の追求する課題である。

一方で、師は、「スパツ」と歌えるように成長してきた私に、「モワー」という音の感じ方は、決して無くしてはいけないそれが音楽なのだから。」とおっしゃった。

かみのいきよ、われを活かし、
み側をはなれず おらせたまえ。

神から受けた息、風を声に鳴り響かせ、歌う事で、神の息を世界に伝える人間になれたらと思う、今日この頃である。

追記

私の歌の師は、真言宗のお寺の住職である。ある日、お寺にレッスンに伺った時、本堂に通された(なぜか、そこにもリードオルガンが置かれていた)、そのオルガンで、ブラームスのドイツレクイエムのレッスンをして下さいました。「Herr, lehre doch mich(主よ、教えてください。)」と私の歌の声がお堂に鳴り響く。その時の、師の弾かれたオルガンの音は、やはり、「モワー」であった。

The Salt of the Earth, The Light of the World

シリーズ・私の教会 file 62

日本福音ルーテル 蒲田教会

小石澤 麻美

女子短期大学 子ども学科3年

東京都大田区の緑豊かな下町のなかに元気がいっぱいな子どもたちの声が響いている場所があります。そこが私たちの教会です。私たちの教会は1950年にスタイルト宣教師によって創設され、現在は渡邊純幸牧師が教会員とともにその伝統を引き継いでいます。そして併設している蒲田ルーテル幼稚園は、これまでに愛や優しさを持った卒園生を数多く送り出してきました。現在も幼児たちはこの場でさまざまなことを考え、感じ、成長しています。

さて、日曜日の朝は教会学校から始まり、幼稚園児や小学生、中学生が合わせて50人以上集まって各世代に合った活動が行われています。そのおかげもあって教会には子どもから年配者まで幅広い世代が集まり、神の家族として交わりと一致をもって毎週の礼拝を行っています。日曜礼拝やクリスマス等のイベントでの賛美はオルガンやピアノの他にフルートやサクソフ、クラリネット、トランペット等の楽器を用いて賛美し教会員の方はもちろんのこと、近隣一般の方にも豊かな賛美の音色を響かせています。また現在ではパイプオルガンの導入を前向きに検討し、設計をしている最中でもあります。礼拝の中に荘厳なパイプオルガンの音色が響くことを教会員は



じめ、地域の方々も楽しみにしています。

また、下町の教会ということもあり、教会員はとでも明るく温かい人が多いというとても魅力的です。礼拝の後には隔週で愛餐会の時を持ち、その中で教会員はおいしいご飯とさまざまな会話を楽しんでいます。また、私たちの教会は“みんなで美味しいものを食べ、みんな笑顔で楽しむ”ということを大切にしているのでパーベキューや本物の竹を使用したの流し素麺、お餅つき大会、ちらし寿司、お花見等を園庭で行うこともあります。それらが行われる際には、幼稚園と連携して幼稚園の保護者や子どもたちも参加し、教会員と幼稚園が一緒に教会の中で楽しみ、

そして神さまの恵みに感謝し、教会の在り方を共に考えています。

昨年の未曾有の震災からすぐにルーテル教会ではボランティアを募って被災地へ向かったり、物資を支援する活動を続けています。蒲田ルーテル教会からも複数名の教会員が実際に被災地へ行き大きな働きをしてくれました。

蒲田ルーテル教会は温かい教会です。教会に初めて来たという方でも大きな愛を持って温かく包み込みながら、どうぞ一度度足を運んでみてはいかがでしょうか。蒲田ルーテル教会と蒲田ルーテル幼稚園は、常に神さまを見上げつつ主の働きのために前進していく教会でありたいと願っています。



海外キリスト教事情

インドネシアのキリスト教事情

稲葉 シリレスタリ
本部宗教センター事務室パートタイム職員

宗教は国によっては大変難しい問題であり、今でも、世界中のどこかで宗教の違いによる争いがまだ続いているのが現状です。私が生まれ育ったインドネシアでも今なおそのような状況が続いています。

今回、執筆させていただくに当たり、インターネットで現地の新聞を読んだり、インドネシアに住んでいる兄弟姉妹と直接Facebookで交信したりして得た情報をもとに少し紹介させていただきます。

インドネシアの人口は2億2,965万人、世界4位と昨年の新聞で発表されています。多民族国家、多宗教国家、世界最大のイスラム(ムスリム)国としても知られています。イスラム教徒の人口は87.2%、プロテスタントは6.04%、カトリックは3.58%、ペンズーは1.83%、仏教は1.03%、その他は0.32%の構成です。私はその3.58%のカトリック信者の中の一入です。この世界の4大宗教が全部そろって共存しているのはインドネシアだけだと思います。

政府は各宗教が定めている祝日を万遍なく採用し、全国民の祝日として受け入れています。しかし、インドネシアではキリスト教としてキリスト教を信じることは、信仰を守り続けることはとても大変なことです。インドネシアの婚姻法では、異なる宗教を持つ男性との結婚は認められておらず、夫となる人が信じている宗教に改宗するか、自分が今まで信じている宗教を選ぶか、という厳しい選択をしなければなりません。例えば、女性がキリスト教の場合、結婚相手の男性がイスラム教徒ならば、女性はイスラム教に改宗しなければならないのです。また、イスラム教から改宗して、キリスト教に入信した場合、murtadin(背教者)と言われます。

今でも一部ではイスラム教とキリスト教の宗教対立が各地で勃発しています。また、キリスト教やキリスト教をあまりよく思っていないごく一部の無



聖ミカエル教会(中部ジャワ)にて、右から2人目が筆者。

責任な団体から、教会を破壊されたり、焼かれたりする事件が時々起きています。悲しいことです。そのため、クリスマス礼拝やミサが行われる時には、念のために、教会の周りに警察官や警備員が立ち、終わるまで見守ってくれています。

しかし、一方では異なる宗教を持つ隣人同士であっても、争い事がないとない地域もあります。お互いの宗教を尊重し合っています。一番好い例としては、首都ジャカルタにカトリック大聖堂とイスラム教寺院、モスクが隣接しているところです。クリスマス礼拝やイスラムの最大の祝日であるイドゥルフィトリ(1ヶ月の断食期間(ラマダン)の終了を祝う日)の合同礼拝が行われる時にはお互いに駐車場を提供し合います。また、インドネシアのある有名なイスラム教系の大学がキリスト教の学生を受け入れたり、キリスト教系の大学がイスラム教徒の学生を受け入れたりして、共に学ぶ機会を与えられています。このようなことが行われているということは意外と知られていないかもしれません。

紙面に限りがありますので、十分にお伝えすることができなくて残念ですが、ほんの一部でもインドネシアのキリスト教事情について知っていただけたのではないかと思います。

終わりになりますが、キリスト教信仰を守る上でとても厳しいインドネシアで生まれ育った私が、今なお信仰を守ることができ、また、日本では家族の理解もあって、こうして毎週日曜日に安心して教会に行くことができるのも、イエスキリストを守り、力を与えてくださっているからだ信じています。

揺れ動く季節に

聖書を読むこと

有賀実男
中等部教諭

青山学院の基はキリスト教です。毎日中等部でも礼拝が行われています。特にその中心となっているのは聖書ですが、その聖書を読むことについての助言を書きます。

まず毎日の礼拝で読まれる聖書の箇所には線を引くことを勧めます。これは皆さんが教科書の大切な所に線を引くのと同じです。礼拝で読まれる箇所は、聖書の中でも大事なところ、中心であるところが多いからです。毎日の礼拝でそれをしていくと、大切なところがすぐ目に入ってきて、だんだん読みやすい聖書になっていきます。そうすると、その聖書は、その人だけのかけがえない財産となっていきます。

それから、自分で聖書を読むことを勧めます。教科書を自分で読んで理解するのが勉強するといえます。キリスト教の教科書は聖書です。したがって、自分で聖書を読むことがキリスト教を知り、理解する最善の方法であるわけです。人に頼らず、まず自分で読んでみる、これが一番勉強になります。しかし、厚い本ですし、読んでみると難しく、おもしろくないのも事実です。ですから夢中になって読むということは少なく、かえって無理して読む、努力して読む、ということになるかもしれません。しかし、そうであっても読んでください。わからなくても、そのまま先に進んでいってください。少しでもわかるころがあればそれで十分です。

最初から最後まで読むことを通読といいますが、できればこの3年間で聖書を通読してください。もしできなかったならば、6年かかって、一生かかってもいいですから、一度は通読してください。

聖書は人類にもっとも影響を与えた書物といわれています。特に欧米の文化を理解するには、聖書なしでは不可能です。小説、音楽、絵画、映画でも聖書に関連する場面はよく出てきます。出てこなくてもその底に流れているものは聖書の思想です。シェークスピアやドストエフスキの文学も、バッハやベートーヴェンの音楽も、レンブラントやミレーの絵画も、表面の理解はできても、真に理解し、その精神を知るには聖書が無くてはできません。

無人島に本を1冊だけ持っていくとすればどの間、聖書と答えた人がもっとも多かったという話には有名なです。無数の本の中でその頂点に位置する聖書、本の中の本といわれる聖書、人類の読むべき本のまず第一にあげられるのが、いま皆さんの手元にある聖書です。ですからそれはとても価値ある大切なものなのです。

礼拝で読まれたところ、自分でいいと思ったところに線を引き、だまされたと思って通読してください。自分から読んでみてください。少しずつ聖書に親しんでいってほしいと思います。そうすると、人生における最も大切な生き方がいつの間にか身につけていること、そして、もっとも頼りになるのが聖書であることに気づけてほしいと思います。

WESLEY HALL NEWS

109TH EDITION MAY 21, 2012



わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。

CHRISTIANBOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

スマートフォン対応アプリケーション YouVersion版聖書

青木 敦

大学文学部史学科教授

私が初めて携帯電話を持ったのは、いまから14年前だ。その後の技術革新は日進月歩、昨年ついに、私もこれまでの携帯電話から、スマホ(多機能携帯端末)に換えた。大学生が使っている端末を見てみると、アップル社のiPhoneが多いようだが、私のはそれではなく、日本製のAndroid端末。東アジア史研究が専門の私のスマホにもいろいろなアプリが入れてあり、訪問先研究所で探し出した重要な史料や、学会での書類をその場で撮影、PDF化してネット上に保存できても、真に理解し、その精神を知るには聖書が無くてはできないでしょう。

無人島に本を1冊だけ持っていくとすればどの間、聖書と答えた人がもっとも多かったという話には有名なです。無数の本の中でその頂点に位置する聖書、本の中の本といわれる聖書、人類の読むべき本のまず第一にあげられるのが、いま皆さんの手元にある聖書です。ですからそれはとても価値ある大切なものなのです。

礼拝で読まれたところ、自分でいいと思ったところに線を引き、だまされたと思って通読してください。自分から読んでみてください。少しずつ聖書に親しんでいってほしいと思います。そうすると、人生における最も大切な生き方がいつの間にか身につけていること、そして、もっとも頼りになるのが聖書であることに気づけてほしいと思います。



朗読もしてくれる。メモやブックマーク機能も、もちろん備わっている。スマホ画面上に小さなウィンドウを開き、その日の一節を出しておくというのか、知ることもできる。外国語で聖書の話をするとき、役に立つ。ただこの「聖書」はオンライン版だから、ネットが通じなければ見られないし、そもそも電気がなくなれば、本を見るしかない。

歴史をみてみるなら、新しいメディアが発明できれば、人々は常に、それを利用して聖書を伝えようと、努

力してきた。様々な種類の紙、活字、点字、録音、ネット。またアラム語からギリシア語、ラテン語、日本語、中国語などなど、新たな言語を話す人々に出会えば、その言葉にも翻訳してきた。

そしてこれからの、何十、何百、何千年後、どのような機器、メディア、そして言葉や情報の概念が生み出されるのか、想像もできない。だが一つ言えることは、そこには必ず、聖書があるだろう、ということだ。いかに現代風な、私のスマホの上の「聖書」も、実はそんな過去から未来へと続く、人々の長い努力の、ほんの一コマに過ぎないのだろう。

編集後記

人生は出会いである、と言われます。わたしたちの人生には、多くの出会いがあります。人と出会うことを通して、人生は広がり深まりを持つことになります。小さい時、大変な恥ずかしがり屋だったわたしたちは、人と出会うということが緊張を要する大変なことであり、あまり好きではありませんでした。しかし、いつしかそれを乗り越え、人との出会いを楽しめるようになった時、自分の生き方や生きる世界が広がり、豊かになったように思います。青山学院に新たに迎えられたお一人お一人に豊かな交わりと出会いが数多くありますようお祈りいたします。(高等部教諭 山田 徹)

Wesley Hall News 第109号
2012年5月21日発行
発行 青山学院宗教センター 学際宗教部 嶋田 順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL:03-3409-6537(ダイヤルイン)
(URL)http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
(E-mail)agcac@aoyamagakuin.jp
編集 青山ルーテルニュース編集委員会
印刷 株式会社万全社

